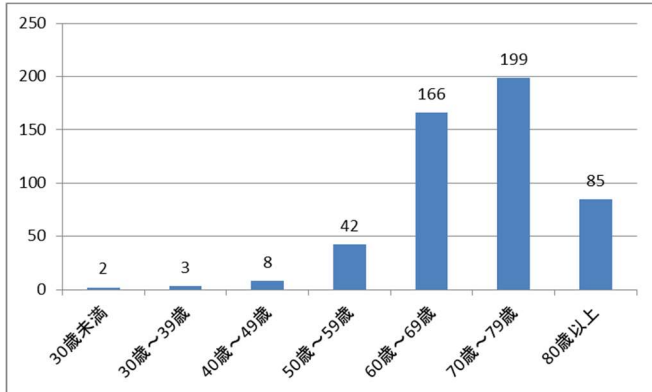
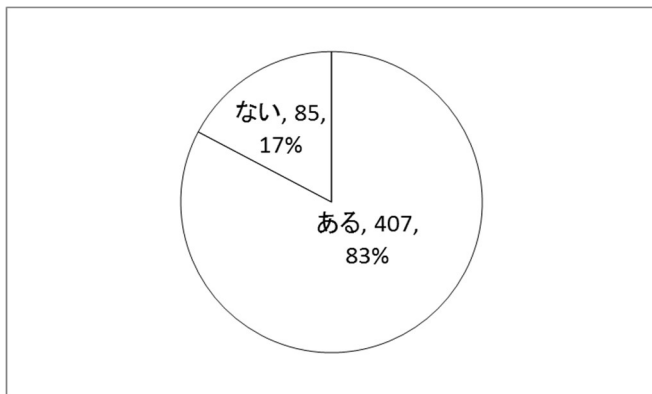


浅羽地区

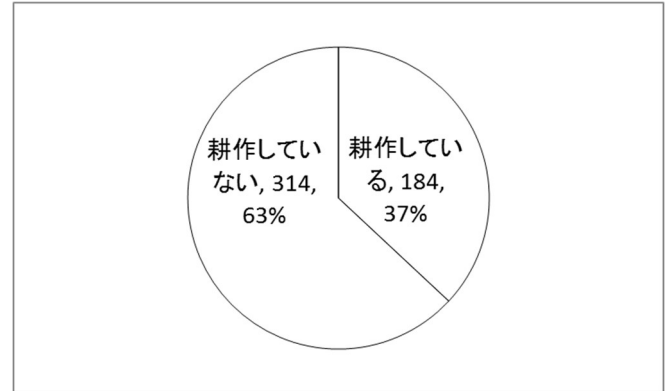
回答年齢



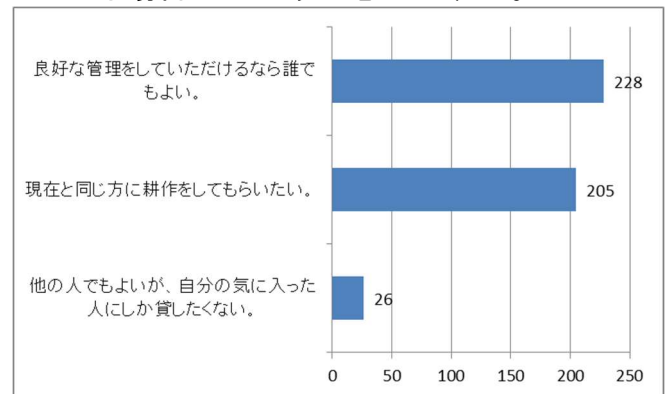
Q2-1 所有農地について耕作を依頼している土地がありますか。



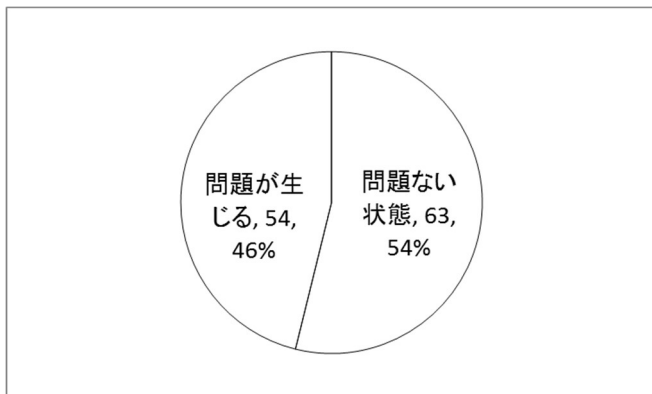
Q1 ご自身の営農状況について現在、ご自身で耕作していますか。



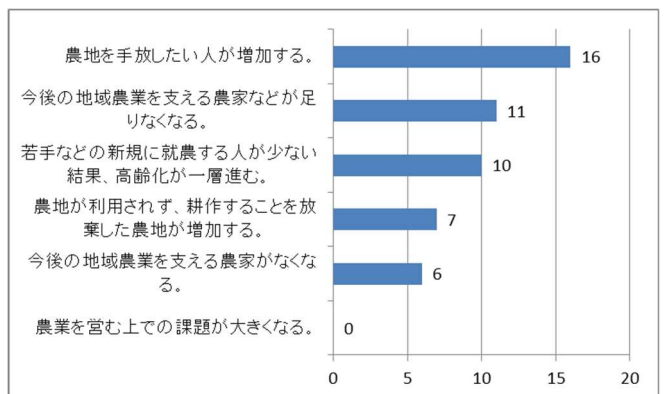
Q2-2 今後、集約化にあたり借り手を変更する場合どのように思いますか。



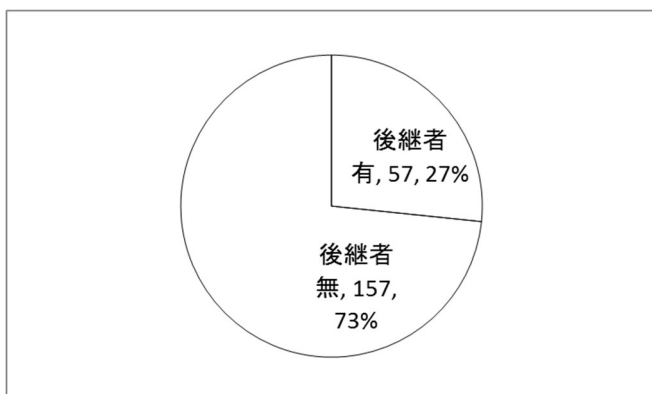
Q5-1 あなたの地域の農業（人と農地）は10年後にどのようになっていると思われますか。



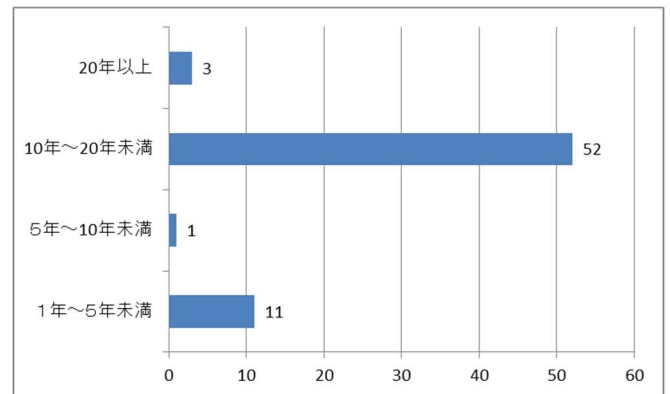
Q5-2 問題と思われる課題



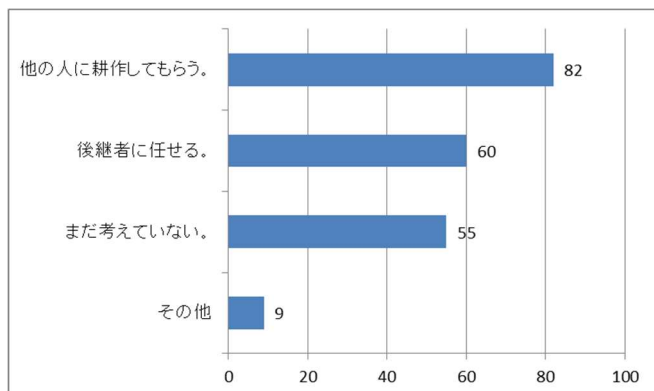
Q7-1 後継者の有無



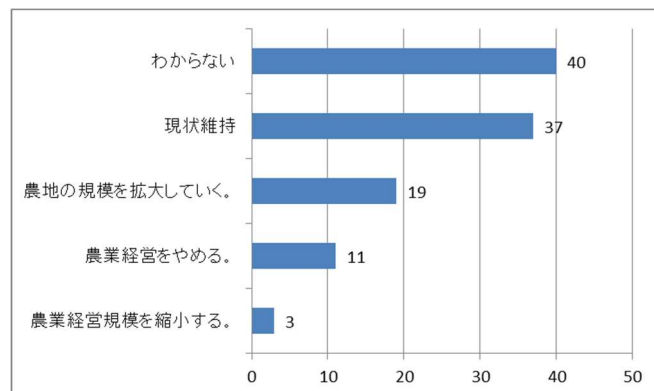
Q7-2 あと何年耕作を続けるとお考えですか。



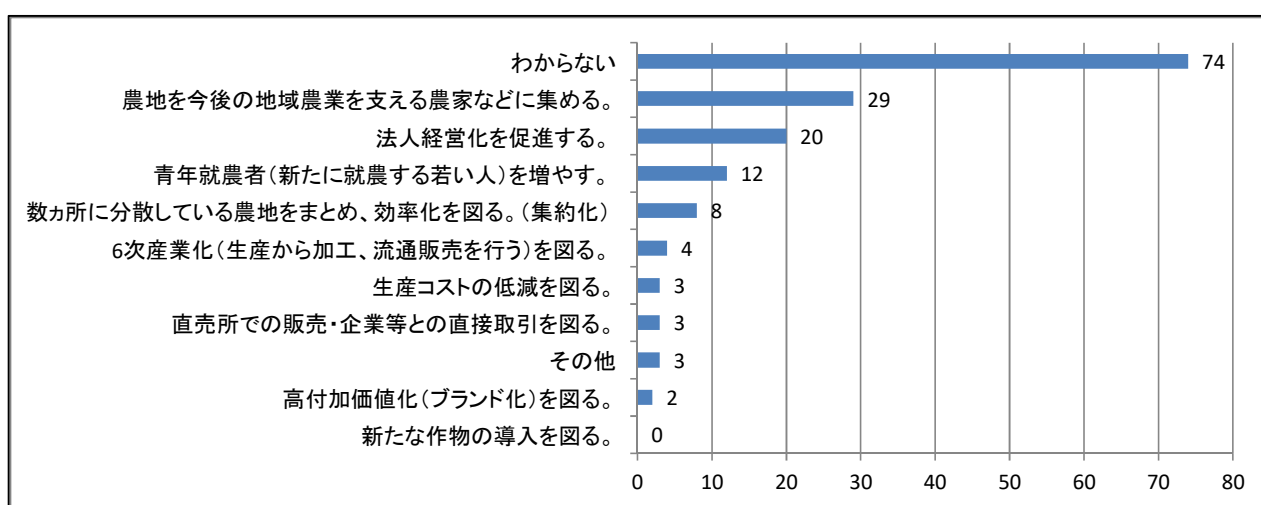
Q7-3 今後、耕作を続けられなくなった場合
どうしますか。



Q9 今後（10年後）のあなた自身の経営方針を教えてください。



Q10 今後の（10年後）の地域農業について、どのような取り組みを行い、発展させていく必要があると思いますか。



浅羽地区農業推進委員会 アンケート結果

【対象者】 1, 089人

【回答者】 512人

【耕作地区】 浅羽東地区 38人 浅羽幸地区 84人 浅羽西地区 48人
浅羽上地区 55人 その他 29人

【性別】 男性 452人 女性 60人

【職業】 専業農業者 133人 兼業農業者 26人
農業以外 249人

【年齢】 30歳未満 2人 30歳～39歳 3人 40歳～49歳 8人
50歳～59歳 42人 60歳～69歳 166人 70歳～79歳 199人
80歳以上 85人

【耕作面積】 ①自分で耕作していない 199人
②3,000㎡未満 73人 ③3,000㎡～10,000㎡未満 67人
④10,000㎡～100,000㎡未満 51人 ⑤100,000㎡以上 18人

【設問1】 ご自身の営農状況について

1 現在、ご自身で耕作していますか。

耕作している 184人 耕作していない 314人

【設問2】 所有農地について

1 耕作を依頼している土地がありますか。

ある 407人 ない 85人

2 今後、集約化にあたり借り手を変更する場合どのように思いますか。

① 現在と同じ方に耕作をしてもらいたい。 205人

② 他の人でもよいが、自分の気に入った人にしか貸したくない。 26人

③ 良好な管理をしていただければ誰でもよい。 228人

【設問3】 今後、所有している農地について、どのように考えておられますか。(未耕作者)

- ① 今後も農地として、耕作してもらおう。 244人
- ② 農地以外の用途に利用していく。 36人
- ③ その他 42人

【設問4】 集約化に向けた課題 地域内で年貢、小作料の統一が必要か

- ① 統一すべき (例 10a 当たり 10,000 円) 197人
- ② 農地等の条件が違うため、統一はできない。 222人
- ③ その他 35人

【設問5】 あなたの地域の農業 (人と農地) は 10 年後にどのようになっていると思いますか。

- 1 問題ない状態 (各世代の農業者によって持続的な農業が営まれている) 63人
- 2 問題が生じる。 54人

(問題と思われる課題を回答してください[複数回答可])

- ① 農地が利用されず、耕作することを放棄した農地が増加する。 7人
- ② 今後の地域農業を支える農家がなくなる。 6人
- ③ 今後の地域農業を支える農家などが足りなくなる。 11人
- ④ 若手などの新規に就農する人が少ない結果、高齢化が一層進む。 10人
- ⑤ 農地を手放したい人が増加する。 16人
- ⑥ 農業を営む上での課題が大きくなる。(例：近隣からの苦情等) 0人

【設問6】 耕作することが困難となった場合 貸出方法 (複数回答可)】 農地を貸し出すことになった場合について、どのような方法が良いと考えていますか。

- ① 貸し手と借り手相対で行う。(利用権設定事業) 152人
- ② 農地中間管理機構が仲介して行う。(農地中間管理事業) 293人

【設問7】 耕作している方にお聞きします。現在、後継者の目処はついていますか。

1 後継者の有無

- ① 有 57人
- ② 無 157人

2 あと何年耕作を続けるとお考えですか。

- 1年～5年未満 11人
- 5年～10年未満 1人
- 10年～20年未満 52人
- 20年以上 3人

3 今後、耕作を続けられなくなった場合はどうしますか。

- ① 後継者に任せる。 60人
- ② 他の人に耕作してもらおう。 82人
- ③ まだ考えていない。 55人
- ④ その他 9人

【設問8】 耕作している方にお聞きいたします。

現在、あなた自身の経営は、地域の中でどういう位置づけだと思えますか。

- ① 地域の中心となる農家であり、今後も中心になると思う。 19人
- ② 地域の中心となる農家であるが、将来的には中心にならないと思う。 20人
- ③ 今は地域の中心となる農家ではないが、将来的には目指していく考え。 12人
- ④ 今は地域の中心となる農家ではなく、将来的にも考えていない。 119人

【設問9】 耕作している方にお聞きします。

今後（10年後）のあなた自身の経営方針を教えてください。

- ① 農地の規模を拡大していく。 19人
- ② 現状維持 37人
- ③ 農業経営規模を縮小する。 3人
- ④ 農業経営をやめる。 11人

⑤ わからない。 40人

Q9で規模を縮小する又は農業経営をやめると答えた方にお聞きします。

① 農地は今後も（貸すなど）農地として残していきたい。 3人

② 農地以外の用途で活用したい。 3人

【設問10】 今後の（10年後）地域農業について、どのような取組を行い、発展させていく必要があると思いますか。 [複数回答可]

① 農地を今後の地域農業を支える農家などに集める。 29人

② 数ヵ所に分散している農地をまとめ、効率化を図る。 8人

③ 生産コストの低減を図る。 3人

④ 新たな作物の導入を図る。 0人

⑤ 直売所での販売・企業等との直接取引を図る。 3人

⑥ 6次産業化（生産から加工、流通販売を行う）を図る。 4人

⑦ 高付加価値化（ブランド化）を図る。 2人

⑧ 青年就農者（新たに就農する若い人）を増やす。 12人

⑨ 法人経営化を促進する。 20人

⑩ その他 3人

⑪ わからない。 74人

◎ご意見等

- ・顧客・市場で求められる生産物とそのクオリティーに対応する必要性
- ・畦畔の草刈りをしていない場所が増加傾向に感じる
- ・作業の効率化・ロボットの普及・新品種の開発
- ・交換分合
- ・農産物の価格の安定と収穫量の確保
- ・田は、大型機械の耕作のために1枚の田を大きくすることが必要パイプラインの整備
- ・法人が集約して事業推進を要望
- ・袋井ブランドを作るべき
- ・市、農協等が地産地消を推進することを要望
- ・地域に住んでいないので耕作者に任せる
- ・JAの存在が農業の阻害要因になっていると思う
- ・大規模農家が集団耕作可能となるべく広範囲の農地を区割りするとよいと思う
- ・米と野菜に絞り、ブランド化を図る
- ・農地を集約化し、経営は法人化
- ・市外の耕作者が耕作できなくなる
- ・土地を売却したい
- ・耕作放棄地が増える
- ・耕作してないので、土地を売りたい
- ・個人では働き手の病気・けがなどリスクが大きい
- ・作物の売り方が大切
- ・後継者に魅力のある農業経営、AIとか取り入れる
- ・農地は、土地の条件によって大きく左右
- ・高齢
- ・自給自足したい
- ・地域の未来設計図を描く
- ・退職者に農業参加してもらい、機械化も考える
- ・農地中間管理機構が仲介し、耕作を継続させる
- ・田は国の補助金、集約化
- ・法人化により若年者を募集し、高付加価値の作物を作り地域の活性化を図る
- ・保証金を出す

- ・ 法人化して取り組む
- ・ 集約化し大規模農業で効率化・採算性を図る
- ・ 耕作不利地はやめ、良い茶園を大型農家に管理委託を勧める。転作も単年で利益が得られる作物を探していく。
- ・ 生産性が高まる商品を世の中のニーズと併せてどのように設定できるかがキーポイント
必要なら協力は惜しまない
- ・ 農地が「負の遺産」ではなく「富の遺産」であることを再認識したい
- ・ 「農業推進委員会」を通し、農業の在り方を推進してほしい
- ・ 貸した畑が荒廃し、葎（よし）が車両交通上の支障となっている
- ・ 水利組合の管理費の支払い
- ・ 青地の土地の売却方法を教えてほしい
- ・ 農地をまとめ、効率化を図らないと経営が成り立たない
- ・ 市からの提言型アンケートでないとはっきりした回答にならない。
- ・ 畑は、集約化・法人経営が必要
- ・ 集約化をすすめ、耕作放棄地をなくす